令和４年度霞ヶ浦学講座第10講霞ヶ浦のヒミツを探ろう４「霞ヶ浦の古墳のヒミツ」
実施報告案

実施日時：令和５年３月12日（日）9:00－12:30
場所：霞ケ浦環境科学センター多目的ホール
　　風返稲荷山古墳（かすみがうら市安食1526）
　　富士見塚古墳公園（かすみがうら市柏崎1555-3）
参加者数：25名（内小学生７名）
内容：ミニレクチャー、古墳見学
講師・案内：千葉隆司氏（かすみがうら市歴史博物館館長、学芸員）
実施概要

かすみがうら市歴史博物館長千葉隆司氏を講師に迎え、ミニレクチャーでは、古墳時代や古墳についての概略を伺いました。

後半は、かすみがうら市にある風返稲荷山古墳（前方後円墳）、富士見塚古墳（前方後円墳、円墳など）を見学し、古墳とともにその時代の霞ヶ浦の様子を伺うことができました。

【ミニレクチャー・案内概要】
＜古墳、古墳時代とは＞

古墳時代は、いわば古墳が造り続けられた時代になります。弥生時代と飛鳥時代の間、３世紀前半から７世紀初頭になります。古墳時代は大きく出現期、前期、中期、後期、終末期にわけることができます。古墳の大きさや副葬品が時代とともに変わっていきました。

土浦市、かすみがうら市にはあわせて1,000基もの古墳があるとされています。古墳時代中期には、各地で前方後円墳がつくられています。これは大和朝廷と大きな関係があり、大和朝廷の力が、地方まで広がっていたことを示しています。茨城県内でも田宿天神山古墳、舟塚山古墳（石岡市）など巨大な前方後円墳がみられます。中期の古墳では、武器や武具、馬具が副葬されることが多いです。（馬は古墳時代に朝鮮半島を経由して軍馬、農耕馬として導入されました。当時の霞ヶ浦沿岸地域では牧場が多かったのではと推測できます。）

後期古墳には、富士見塚古墳や三味塚古墳、権現山古墳などがあります。この時代の副葬品には、金銅製品や窯で焼かれた埴輪がみられます。

古墳時代終末期には、大型の古墳は、少なくなり、円墳、方墳など小規模の古墳が増えていきました。

【見学場所】
風返稲荷山古墳（6世紀末頃の築造　風返古墳群総数34基の中の唯一の前方後円墳、全長78m）

括れ部に箱型石棺、後円部下に横穴式石室が発見されています。金銅製や銀製の馬の飾り

金具２馬分が発見されています。また、銅鋺（遣隋使を通して、金属の器を使用する文化が取り入れられ、地方豪族に分配されたと考えられています。）、様々な飾りを施した刀、鉄製の鉾なども副葬されており、被葬者が大和朝廷と太いパイプを保持していた存在であるとともに、東国を代表する権力を認められた人物像ととらえることができます。

富士見塚古墳（6 世紀前半の築造。全長 80m、高さ 11.5m の前方後円墳。）

周辺に数基の円墳があります。霞ヶ浦にそそぐ菱木川のそばにあります。造られた当時、対岸からも雄大な姿が見られたのではと想像できます。

副葬品には直刀、鉄、金銅製馬具　管玉、ガラス玉などがあります。また、多くの埴輪（円筒埴輪・形象埴輪）などが出土しています。形象埴輪の多くは括れ部に設けられた造り出し部から出土しています。鹿の埴輪も出土しています。埴輪を作るには高度な技術が必要で、当時の霞ヶ浦流域にも技術が伝わっていたことがわかります。

【見学概要】

風返稲荷山古墳、富士見塚古墳及び展示館を千葉氏案内のもと見学しました。

台地をくだり、川を越えた先に古墳があります。

風返稲荷山古墳

一見すると、雑木林にしか見えません。

雄大な富士見塚古墳（1 号墳）

墳丘から霞ヶ浦を眺めることができます。

富士見塚古墳展示館にて

形象埴輪の説明に聞き入る参加者の皆様

（文責　小川）